



Title	永田仁助先生略歴
Author(s)	
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/88729">https://hdl.handle.net/11094/88729</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 永田仁助先生略歴

先生名は仁助、幼名勝藏と稱す、初め南溪と號し、後磐舟と號す、文久三年三月二十二日永田仁左衛門氏の長男として大阪南區高津四番丁二十六番地に生る、高津小學校卒業後、漢學を藤澤先生に學び、英學を澤田登平氏に受け、夙に出藍の譽あり、詩を善くし書に工なりき昭和二年三月歿す、享年六十五、夫人ヂウ子、子なし、愛知縣中島郡大和村の人中村鐵次郎氏の四男秀雄君（今襲名改仁助）を養子とし家を嗣がしむ、配するに養女皎子（實は藤澤元造氏三女）を以てす、先生の履歴左の如し。

明治二十二年二月大阪府會議員に當選、毎改選期再選、同卅六年九月退職、

同二十二年六月大阪市會議員に當選、毎改選再選、同三十二年四月退職

同二十四年四月大阪府會常置委員（現今の府會事務員）當選、毎改選期再選、同三十二年七月退職、此間聯隊區徵兵參事員地方森林會員等に當選、

同二十五年十月南區高津町四番町外十四ヶ町區會議員に當選、同卅四年九月退職、

同廿六年三月大阪築港取調委員當選、同卅年五月退職、

同二十七年十月株式會社大阪明治銀行創立發起人となり、設立の後同行取締役となる、

同卅二年四月株式會社浪速銀行常務取締役に當選、同卅七年四月同行常務取締役再選、

明治三十三年十月より大正二年一月まで大阪組合銀行集會所委員並に大阪手形交換所委員となり、  
每改選期當選、

明治四十一年五月株式會社浪速銀行頭取に當選就任、大正二年一月同行頭取辭任、取締役のみ留任、  
同五年一月同行取締役辭任、

明治四十三年阪堺電氣軌道株式會社發起、同取締役當選、

同四十四年八月賞勳局より三ヶ重金杯一組を下賜せらる、

大正元年十一月大阪電氣軌道株式會社設立取締役當選、

同二年一月手形交換所大阪組合銀行集會所より、兩所の爲め多年盡力の廉により組合總會の決議を  
以て銀製釣花瓶を贈らる、九月財團法人懷德堂記念會理事長に當選し、爾後改選毎に再選、十二月  
大阪電燈株式會社監査役に當選、

同三年十一月大本營(四師團)に於て、波多野宮内大臣に對し實業上の成績に關し述ぶる所あり、

同四年四月南海鐵道株式會社取締役に當選、八月大阪電氣軌道株式會社取締役に當選、十一月賞勳  
局より大禮記念章を賜はる、十一月日本染料製造株式會社創立委員に當選、

同五年二月日本染料製造株式會社取締役に當選、十二月大阪株式取引所理事に當選、

同六年九月市制第七十三條により大阪市長候補者に當選、十一月日本郵船株式會社取締役に當選、十二月大阪電燈株式會社取締役及社長に當選、

同八年二月賞勳局より三重銀杯一組を下賜、五月大正水力電氣株式會社創立委員となり、九月取締役に當選、十二月帝國協會大阪支部長の囑託を受く、

同九年一月財團法人協調會評議員となる、四月東洋綿花株式會社取締役に當選、五月帝國發明協會有功會員に選舉せらる、同月日本郵船會社取締役再選、七月都市計畫大阪地方委員會委員仰付らる、

同十年十二月大阪電燈株式會社監査役に當選、

同十一年五月五日英國皇太子殿下大阪市廳舍に御臨場の節拜謁を賜はる、七月新京阪電氣鐵道株式會社發起人となり、同社取締役に當選す、同月二十七日鐵道會議員被仰付、

同十二年五月日本郵船會社取締役再選、十一月二十六日市制第七十三條第二項により大阪市長候補者に當選、

同十三年二月十一日正六位に叙せらる、六月二十一日南滿洲鐵道株式會社監事に當選、十月七日文部省より大阪高等工業學校商議員を囑託せらる、

同十四年四月大和鐵道株式會社監査役に當選、五月六日奈良鐵道株式會社取締役に當選、同九日財

團法人大阪府方面委員後援會監事再選、同二十三日日本無線電信株式會社設立委員被仰付、十月二十九日京阪電氣鐵道株式會社監查役當選、十二月一日貴族院議員に勅選せらる、同月七日大阪放送局理事長に當選、

同十五年八月六日日本染料製造會社監查役に當選、同日日本放送協會顧問に當選、同八月滿鮮地方を視察す、十一月二日商事調停委員を命ぜらる、十二月三井信託株式會社監查役に當選、昭和二年二月二十五日電氣協會會長候補に當選、三月十日東京ステーションホテルに於て歿す。是日特旨を以て從五位に叙せられ、勳三等瑞寶章を賜はる。